

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2026 Mar

第129号

発掘調査
整理遺跡
紹介

南魚沼市六日町藤塚遺跡 村上市上野遺跡

埋文インフォメーション、埋文コラム、県内の遺跡・遺物



南魚沼市六日町藤塚遺跡 写真を撮るときはきれいにね



2025年度
発掘調査
遺跡の紹介

六日町藤塚遺跡

—古墳時代後期の祭祀遺構と平安時代の集落—

所在地：南魚沼市余川よかわ

むいかまちふじづか みなみうぬましよかわ しょうの
六日町藤塚遺跡は南魚沼市余川に所在し、庄之
またがわ
又川によって形成された標高182mの扇状地上に
立地しています。発掘調査は、国道253号八箇峠
ほっかとうげ
道路の建設に伴い実施しました。これまでの発掘
調査で、6世紀前半の古墳時代後期の祭祀遺構や
7世紀後半～8世紀初頭の飛鳥時代～奈良時代の
建物や畠などが見つかっています。

2025年度の調査でも、古墳時代後期の祭祀遺構
を確認しました。調査区の南端で確認した遺構
は、潰れてはいましたが南東から北西方向へ1m
の範囲に土師器の小型壺1点・杯1点・甕1点・
壺1点を1列に配置し、壺の西側脇に手づくね土
器1点が据えた状態で出土しました。1回の祭祀
使用状態を保っていると考えられます。調査区の
北端では、方向がほぼ南北軸の一辺6.5mの方形
で周囲を溝で囲み、内部の中央で火が焚かれた遺
構が見つかりました。溝は南辺の中央で途切れて

いることから、ここが出入口と考えられます。火
が焚かれた北西側の窪みから土師器の甕・杯が出
土し、溝の中には大きな礫と土師器の高杯1点と
杯1点が据えられていました。調査では平地建物
と考えていましたが、柱穴を確認できなかったこ
とから祭祀場の可能性もあります。

古代面では、平安時代（10世紀前葉が中心）の
竪穴状遺構、柱穴列、土坑などの遺構が見つかり
ました。その中の調査区南西側で見つかった遺構
群は、壁面が被熱し鉄滓が出土した竪穴状遺構の
北辺を7本の柱穴列で仕切り、さらに外側（北側）
を溝で区画するかなり特異的な造りをしていま
す。その北側は作業小屋あるいは倉庫と考えられ
る竪穴状遺構があり、また周辺から糸に撚りをか
ける紡錘車も出土しています。これらの遺構は生
業に関連した工房施設としての機能を考えていま
すが、引き続き検討して参ります。（飯坂盛泰）



古墳時代後期の祭祀遺構①（東から）



古代面 調査区全景（北西から）



古墳時代後期の祭祀遺構②（北から）



平安時代の竪穴状遺構と柱穴列（西から）



2025年度
整理遺跡
の紹介

上野遺跡の最新整理状況

縄文時代後期の大規模集落

村上市上野遺跡は縄文時代後期前葉（約4,000年前）の集落で、三面川の支流・高根川右岸の扇状地に立地します。13,000基を超える遺構を検出した大規模集落で、出土した土器は27トンにも及びます。これまでの調査成果を整理するために、遺構・石器・石製品、土器・土製品と3つに分けて整理作業を進めました。

- ① 土器では調査区の長軸を南北方向に流れるSR103（自然流路）を中心に作業を実施しました。多量の土器や土製品を確認するなかで、特筆すべきは蓋付土器の発見です。蓋と小型の深鉢形土器は異なる年度の調査で個別に出土したもので、整理作業によって噛み合うことが判明しました。この土器の用途や製作方法などの説明が期待できます。
- ② 石器・石製品では出土した資料の半分程度の基礎的な情報を記載した台帳作成を進めまし

た。一部の石鏃、石匙、凹石や敲石などは遺跡周辺の石材を利用して製作しています。なかにはアオトラ石の磨製石斧もあり、遠方との関係を伺える資料もありました。板状石器は遺跡では出土量の最も多い石器で、SK12699では複数点の板状石器が接合することを確認しました。集落内に素材石材を運んでから製作していたことが想定できます。

- ③ 遺構では現地の調査所見を踏まえて、重複関係を再度、把握・検討し、現段階で竪穴建物10棟、掘立柱建物27棟、平地建物238棟を確認しています。掘立柱建物から平地建物へと建物形態の中心が変遷する様子が伺えます。

上野遺跡の集落の様相を明らかにする本格的な整理作業は始まったばかりです。これまでの長期に及ぶ発掘調査の整理作業はまだまだ続きます。

（加藤元康）



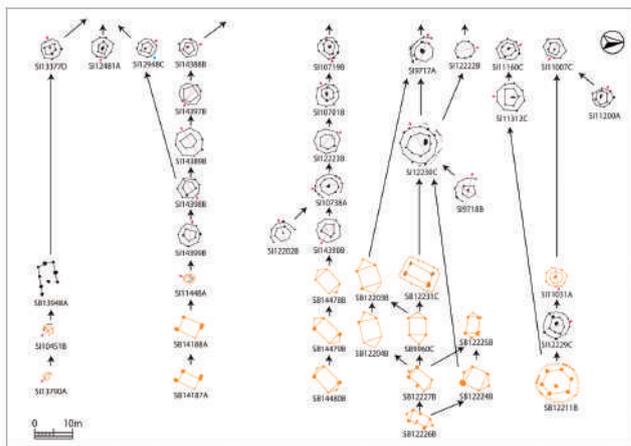
①-1 土器の接合作業



①-2 蓋付土器



② 板状石器の接合資料



③ 建物の重複関係の検討図



埋文
インフォ
メーション

2026年度企画展 1

開館30周年記念—地域に開いた歴史の扉—

5月30日(土)～8月23日(日)(予定)(期間中無休)

新潟県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査し、現在は市町村に譲与された出土品を中心に、新潟県の歴史を紐解くうえで重要な遺物を展示します。

本来ならば、各市町村を訪れないと観られない選りすぐりの優品を通じて、郷土の持つ価値を再発見するきっかけとなれば幸いです。

会期 2026年5月30日(土)～8月23日(日)(予定)

時間 9:00～17:00

会場 新潟県埋蔵文化財センター

観覧無料 関連講演会も予定しております。

会期中 一部展示替えを行う場合があります。

最新情報はHPでご確認ください。

キッズ考古学教室

—2026年度の開催と募集について—

■2025年度のキッズ考古学教室

県内在住の小学4年生～中学2年生が参加し、全3回の活動を行いました。本物の縄文土器に触れ、ミニ土器作りや土器煮炊き体験を通じて、縄文時代を体験し、理解を深めました。



第1回 ミニ土器作り



第2回 火焰型土器突起作り



第3回 土器煮炊き体験

■2026年度 キッズ考古学教室について

2026年度の考古学教室も充実した活動となるよう計画中です。第2回では、縄文時代の遺跡での発掘体験や石器作り体験を通して、縄文時代や考古学への理解を深める予定です。

地域や学年の違う仲間たちと一緒に、考古学の世界を楽しみましょう！

※2026年度は各回(定員16名)を募集します。

日程 第1回 7月5日(日) 9:30～15:00

「縄文時代はどんな時代？」

第2回 8月5日(水) 9:00～16:45

「遺跡に行こう！」

第3回 9月27日(日) 9:30～15:00

「縄文人の技を体験しよう！」

申込期間: (第1回) 5月11日(月)～6月19日(金)

申込方法: 氏名・学年・住所・電話番号を添えて当センターまでお申し込みください。

メール: niigata@maibun.net

電話: 0250-25-3981

FAX: 0250-25-3986



埋文 コラム

新潟県にある国内最北の「蛇行剣」、 上越市黒田古墳群から出ています。

2023年1月に奈良市富雄丸山古墳（4世紀後半の造出し付円墳）から前例のない大型の「鼉龍文盾形銅鏡（長さ64cm、幅31cm、厚さ0.5cm）」と国内最長の「蛇行剣（長さ237cm、刃部は6～7回屈曲）」が出土し世間を驚かせました。

この蛇行剣ですが、文字通り蛇がクネクネと地を這うような形をしているのでこの名が付けられています。蛇行した形状やほぼ古墳などの墳墓からの出土に限られるので、祭祀や葬送儀礼に使われた象徴的な器物であった可能性が推測されています。また、朝鮮半島東南部で4点、国内では約92点が出土しています。西日本を中心に近畿、南九州に分布が集中しています。また、円墳からの出土が多いと言われ、富雄丸山古墳は直径109m、高さ約14mの日本最大の円墳です。

今のところ国内最北の蛇行剣が、1996・1997年に上信越自動車道建設に伴い発掘調査された、上越市黒田古墳群（4世紀後半～5世紀後半）から出土しています。盛土や周溝を持たない木棺墓（長さ2.4m、幅0.4m）の中から出土しました。ほかに刀子1点、鑷子（毛抜き）状鉄製品1点、環状鉄製品2点が出土しています。蛇行剣は推定の長さ30.6cm、幅1.2cm、厚さ0.2cmです。刀身がゆるーく2か所曲がって、先端の切先部分が切断していますが、緩やかなS字状になっています。

この黒田古墳群から出土した蛇行剣は保存処理が終了し、常設展示室に展示してあります。長さ

が比べられるように富雄丸山古墳の蛇行剣1/2パネルも設置しています。

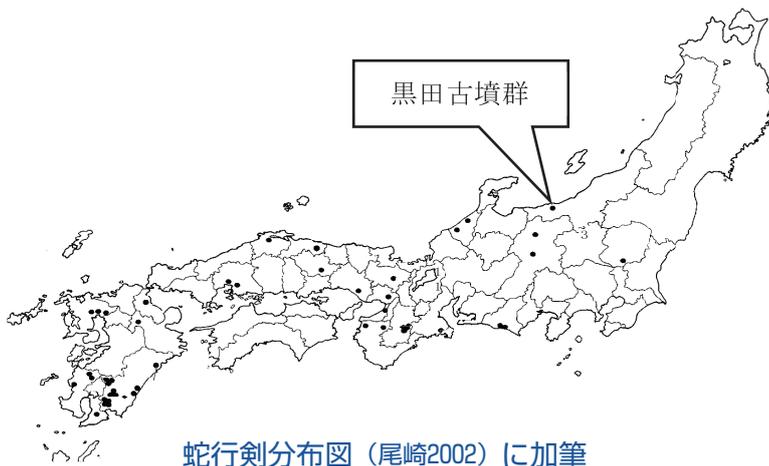
埋文センターの隣には国史跡古津八幡山古墳があります。新潟県内最大の円墳で史跡整備しているので、埋文センターで蛇行剣見学の後に足を延ばしてみたいはいかがでしょうか。ガイダンス施設弥生の丘展示館では御朱印がもらえます。

（佐藤友子）

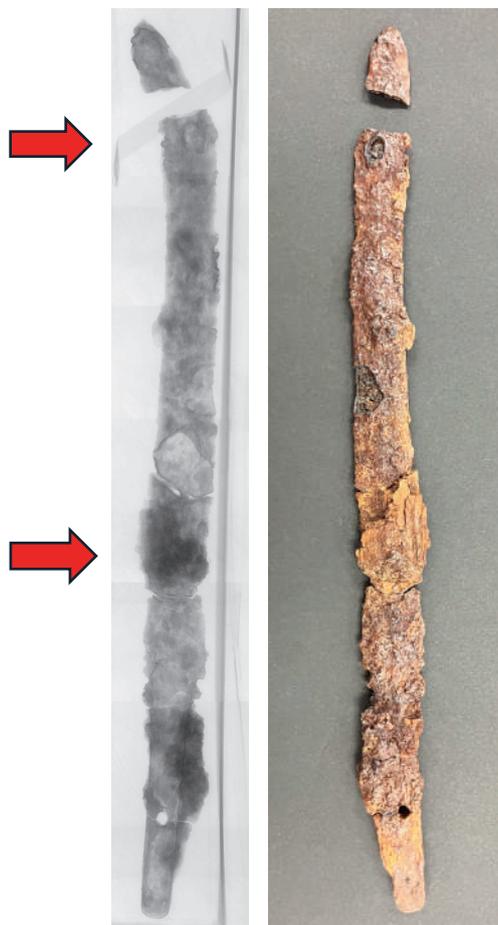
【参考文献】

尾崎高宏 2002『新潟県埋蔵文化財調査報告書第111集 黒田古墳群』新潟県教育委員会ほか

日高風海斗 2025『百練利刀～刀は妖しく輝き、剣は蛇と化す～』宮崎県立西都原考古博物館



蛇行剣分布図（尾崎2002）に加筆



黒田古墳群出土「蛇行剣」
X線写真（左）新規撮影、反転しています。
保存処理後写真（右）



2020年9月30日 国指定重要文化財【考古資料】

本ノ木遺跡出土品 1,296点

遺跡所在地：なかうおぬまぐんつなんまちおおあざしもふなと おつあざもとのき中魚沼郡津南町大字下船渡乙字本ノ木
遺物保管：津南町（津南町教育委員会）

県内の
遺跡・遺物
124

本ノ木遺跡は信濃川と清津川の合流点に位置し、1956（昭和31）年冬に芹沢長介らが、翌1957（昭和32）年夏には山内清男らが計2回に渡り発掘調査を実施しています。この調査で多量の尖頭器や押圧縄文土器などが出土しました。縄文時代の起源が議論された「本ノ木論争」の舞台となった遺跡でもあります。現在までも、縄文時代の起源については、議論が続いており、決着はついていません。

本ノ木遺跡は、その後、範囲確認調査を実施し、発掘調査報告書を刊行しました。2019（令和元）年10月16日には国指定史跡になりました。さらに、芹沢長介、山内清男らが調査した際に出土した出土品が、2020（令和2）年9月30日に国指定重要文化財に指定されました。内訳は土器片66点、石器1,214点（尖頭器1,110点、削器74点、搔器18点、石斧12点）、附：剥片9点、石核7点です。

出土した多量の尖頭器は完成品のみならず、未成品や多量の剥片・チップが出土したことから尖頭器の製作遺跡と考えられ、製作技術や製作工程を考えることができる貴重な資料です。また、出土した土器は「本ノ木式」と呼称され、押圧縄文土器が中心となっています。

遺跡周辺に石器の素材となる石材が分布していることから、この地が当時の人々にとって重要な場所であったと考えられます。

本資料は、現在、2025（令和7）年10月18日に開館した津南町埋蔵文化財センター“うもれあ”の第1展示室にて、収蔵展示しています。ぜひともご来館ください。

詳細はQRコードからホームページをご確認ください。

（津南町教育委員会 佐藤信之）



本ノ木遺跡出土品（撮影 小川忠博）



津南町埋蔵文化財センターの展示の様子



埋文にいがた 第129号 2026年3月13日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。